

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら麻生教室		
○保護者評価実施期間	2026年 12月 1日		2026年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	15
○従業者評価実施期間	2026年 12月 6日		2026年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	(回答者数)	
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 7日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学校では学べない、学校とは異なる視点からのプログラムを実施している。	獣害学習、プラネタリウム体験、テント設営など、幅広いプログラム内容を企画し、児童の興味・関心を引き出し、やる気や向上心の育成につなげている。	プログラムミーティング(MT)を定期的を実施し、ねらいや役割分担、事前準備を徹底することで、より質の高い内容となるよう充実を図る。
2	生活等に必要な訓練を、日常支援の中で積極的に行っている。	実際の地震や火災を想定したプログラムを、頻度高く取り入れ、児童が体験を通して学べる機会を設けている。	児童用の年間予定表を作成するとともに、保護者に向けて実施した月ごとの訓練内容や様子を、ブログ等で継続的に発信していく。
3	パート職員に対しても研修は比較的充実しており、定期的に研修を実施している。	時間に余裕があるときに視聴できる研修動画等用意している。	日々の支援の中で実体験を積み重ねられるよう、OJTや振り返りの機会を増やし、研修内容と現場支援を結び付けて理解を深めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもの様子や送迎の希望など、保護者から伝えた重要な情報がスタッフ間で十分に共有されておらず、対応の一貫性に欠けている。	保護者からの要望や子どもの状況が、誰でも同じように把握・対応できる体制を整えること。	伝達事項を聞いたうえで、保護者様に再度同じ内容をLINEなどで共有してもらえるようお願いする
2	避難訓練は実施されているものの、非常時マニュアルの内容や実際の対応方法について、保護者への周知・説明が不十分で不安につながっている。	マニュアルの詳細公開が難しい部分を踏まえつつも、対応の流れや基本方針を分かりやすく伝える工夫が必要。	避難経路、感染症マニュアルなど面談室に掲示する。
3	「生活空間は清潔で心地よいか」という問いに否定的な回答が複数あり、環境整備や清掃、居心地の面で改善の余地がある。	日常的な環境整備や確認を徹底し、保護者・子ども双方が安心して過ごせる環境を維持すること	児童の足の裏が汚れていることが多いため、スチーマーや毎日の水府拭きなどを検討する必要がある。